

7～8月の支出(図書、備品、慶弔、飲食除く)

142,769円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代(月刊武松用紙代、インク代) 55,520円
交通費(駐車場、燃料代、高速代) 24,225円
通信費(折込代、携帯電話代) 63,024円
支出計 23/7/1～23/8/31 142,769円

市政を考える 月刊武松

発行日
23/9/4

第212号

19800部発行

たけまつ ただし
頒布責任者：武松 忠(市議会議員)

関東大震災から100年

市の100年事業と土木学会土木図書館写真アーカイブス他

既に広報で配布されていますが、大事なことから9月以降の事業を抜粋して示します。

■関東大震災100年事業

1923年9月1日11時58分、関東一帯を襲った大地震は小田原地域に甚大な被害をもたらしました。

地震発生から100年の節目である本年、人々の記録と記憶によって残され、現在まで受け継がれてきた様々な震災関連の資料などから当時の状況を振り返り、改めて防災について考える機会となるよう、関東大震災100年事業として、パネル展などとともに、防災の啓発活動を実施します。

■関東大震災の写真と防災対策パネル等の展示

関東大震災発生時の状況が分かる写真や、地震発生時に取るべき行動、市の発する情報の入手方法が分かる資料などを展示します。

～9月4日(月) 市役所 2階ロビー

■企画展「100年の記憶と記録—小田原の関東大震災—」

日時：8月26日(土)～10月29日(日)
09:00～17:00(最終入場は16:30)

会場：郷土文化館 文化人資料室(城内7-8)

地震の被害を記録した写真や絵画を中心に、関東大震災を紹介します。

■関連事業

ア パネル展示

期間：8月28日(月)～10月29日(日)

場所：ハルネ地下街 ハルネギャラリー

イ 郷土研究講座「関東地震100年・その地震像と被害について」

日時：9月23日(祝・土) 10:00～11:30

場所：根府川公民館 定員：30名

講師：本多亮氏(神奈川県温泉地学研究所・主任研究員)

ウ 郷土探究会「関東大震災の伝承碑をめぐる—根府川地区の山津波—」

日時：9月23日(祝・土) 13:00～15:00

場所：根府川地区 定員：20名

講師：山下浩之氏(県立生命の星・地球博物館 企画普及課長/学芸員)

一寸木肇氏(おおい自然園園長)

※イ、ウは事前申込(8月10日(木)より郷土文化館に電話にて。0465-23-1377)

■おだわら防災ナビに災害伝承資料を追加

スマートフォン向けアプリ「おだわら防災ナビ」に災害伝承資料を追加しています。

- ・関東大震災の思い出集
- ・山王網一色関東大震災体験記録集
- ・広報おだわら 私の関東大震災体験記

■土木学会附属土木図書館デジタルアーカイブス

土木学会附属土木図書館は、デジタルアーカイブスにて写真をHPで掲載しています。

関東大地震震害調査報告

http://library.jsce.or.jp/Image_DB/shinsai/kanto/jsce_report/index.html

小田原市内の被害写真
リンクリスト →



土木貴重写真コレクション

10.地震 関東大震災 橋梁～山崩れ、その他

http://library.jsce.or.jp/Image_DB/koshashin/C0021_01.html



■関東大震災映像デジタルアーカイブ

世紀を超えて残されてきた国立映画アーカイブ所蔵の関東大震災の映画フィルムを通して、巨大災害の実態と社会の変容を、現在の共有知にするためのウェブサイト

<https://kantodaishinsai.filmarchives.jp/>



地震の備えと家庭での備蓄

関東大震災から100年を迎え、改めて、初期消火と、日頃の近所付き合いの必要性についてまとめます。(月刊武松61号より)なお、津波浸水想定区域の方は、最短2分で到達する予測となっていますので、火の始末後に、命を守る行動をとってください。

■63%が近所の人に救出された!

阪神淡路大震災で、倒壊家屋などから救出された人の63%が近所の人に救出され、19%の人が家族、消防職員等に救出されたのは2%だけでした。大規模災害時は救急車も消防車も現場には来られません。まさに近所付き合いが生命を左右しました。

■地震の被害を最小限にとどめる4つのポイント

- 1.家が壊れない(耐震化、家具の固定)
- 2.ケガをしない(場に応じた対応、懐中電灯、スリッパ)
- 3.初期消火(チャンスは3度)
- 4.助け合い(全員がリーダー、全員が被災者)

■初期消火の3つのチャンス

- 1.揺れの小さいうちに火の始末
- 2.揺れが収まってからの火の始末
- 3.火事になっても火の小さいうちに初期消火

■地震のタイムスケジュール

- ・激しい揺れが収まるまで(命を守る時間)
揺れが収まるまでは身の安全確保に全力を尽くす。
- ・揺れがおさまって1分(家族を守る時間)
家族の無事を確認、手分けして火の始末。
- ・2分から15分(まちを守る時間)
近所に声を掛け合い無事の確認、火の始末の呼掛け
- ・15分から12時間(被害の拡大に備える時間)
消火活動や救出・搬送など近所で助け合って、被害の拡大を防ぐ。避難の指示に備える。
- ・12時間以降(生活を守る時間)
外出している家族の安否確認、備蓄物資で当面の衣食住をしのぐ。
- ・3日目以降(生活を建て直す時間)
公的機関による応急活動や復旧活動が本格化。

■災害時に対する家庭での備え

■家庭での備蓄(家族の人数×7日分)

市では避難所で最低限必要となる食料品や生活必需品の備蓄を行っていますが、大規模災害の混乱の中

では備蓄物資がすぐに配分できるとは限りません。

2011年3月に発生した東日本大震災では、物流の混乱等により、満足に食料を調達できたのが発災後3日目以降という地域があったり、また、電気の復旧に1週間以上、水道の復旧に10日以上時間を要した地域もありました。

このようなことから、各家庭においても災害等の非常事態に備え、最低3日分、できれば7日分の食糧・物資を備蓄することが重要になります。

大規模災害の場合、スーパーやコンビニでは、食料品が品薄となり、いざ購入したいときにはもう商品がない、ということが起こります。普段から購入している食料をいつもより多めに購入して、備蓄をしましょう。

■家庭備蓄の例(7日分/大人2人)※ 必需品

- ・水(2ℓ×6本×4箱) 1人1日約3ℓ
- ・カセットコンロ・カセットボンベ×12本

主食

- ・米2kg×2袋
- ・乾麺(そうめん2袋、パスタ2袋)
- ・カップ麺類×6個
- ・パックご飯×6個
- ・その他(常温保存可能牛乳、シリアル)

主菜

- ・レトルト食品(牛丼の素、カレー等18個)
- ・缶詰(肉・魚)×18缶

副菜・その他

- ・日持ちする野菜類(玉ねぎ、じゃがいも等)
- ・梅干し、のり、乾燥わかめ等
- ・野菜ジュース、果汁ジュース等
- ・調味料(砂糖、塩、しょうゆ、めんつゆ等)
- ・インスタント味噌汁や即席スープ
- ・菓子類(チョコレート、ビスケット)

まず初めに7日分用意します。古いものから消費したら買い足すようにするのがコツ。

※農林水産省「災害時に備えた食品ストックガイド」より

防災の第一歩は安全な場所に居ること。

寝室には家具を置かない 家具類の転倒防止
窓ガラスの飛散防止(フィルム貼付、カーテン)

■お知らせ■

9月の議会報告会は、新型コロナウイルス感染者数が多いため中止です。



公式HP
月刊武松パナパニ他



twitter
防災・感染症情報



facebook
日々の情報など



気象庁キキクル
洪水害

